

シラチャ校だより

泰日協会学校シラチャ校
2025. 11. 30



タイ語による検索で豊かになる情報収集の幅と量

シラチャ日本人学校 校長 藤枝茂雄

先日、中学校社会科の教科書(歴史的分野、地理的分野、公民的分野)を手に取つて、「タイ」という国名がそれぞれの本文中に何度出てくるかを調べてみた。正確ではないかもしれないが、本校の採用している教科書では、「歴史」の朱印船貿易に関するところに1か所、「地理」のアセアン関係のところに1か所、「公民」には「タイ」という語句は見つからなかつたので、合わせて2か所だけのように思われた。

(「公民」の教科書では、国際的な経済協力について書かれたページに、タイの大洪水(2011年)の新聞記事が掲載されていた)。

しかし、実際にタイに住んでみて、様々なことが分かつてくると、タイは、歴史においても、産業においても、日本と極めて密接な関係を維持してきた国であることに気付く。また、現代においても、「90%を超えるタイ人が日本に対して好感をもっている」というような「好感度調査」に関する情報がWEB上で見られるなど、タイは「世界一の親日国」といえるような実態がある。

そのような理由から、タイという国は、私たち日本人にとって非常に暮らしやすく、人々も温かい国であるわけだが、それにしても中学校3年間で学習する社会科の教科書の本文中に出てくる「タイ」の文字が、3冊でわずか2箇所というのは寂しい限りである。

しかし、私たちが悲観することはない。なぜならば、そうした現状は、本校の教育においては十分に補完されているからである。たとえば、本校では、「総合的な学習の時間」の探究テーマとして、全校的に各学年の発達段階に応じて、2023年度から「身近なタイの事象」に焦点を当てて、タイに関する学びを深めている。

その学びを「後方支援」するものとして、毎年3名ずつの教員を東京学芸大学教職大学院の科目等履修生(「国際バカロレア教育入門」)として学校理事会予算により「内地留学」に送り出している。また、校長室においても、タイ人のディレクターや学校理事会事務局長に内容確認を中心とした監修を受けながら、児童生徒だけでなく、

教員のタイに関する理解の推進にも寄与できるように、「シラチャ・ペディア 2024」という資料集を作成している。

「シラチャ・ペディア 2024」については、2025年11月末現在で、暫定版ではあるが、第1巻から第5巻まで各巻100話、第6巻が80話まで、合計580話を作成した。原則として1話につき1ページ(本文7行、写真、「探究的な学びの出発点の例」の3部構成)であるから、かなりの量のタイを理解するための資料が蓄積されることになる。

シラチャ・ペディア 2024 については、添付のページサンプルを参照していただきたい。最近の傾向としては、「タイに関する事象」を取り扱ったもののほかに、本校の教員による先進的、かつ提案性を有した「特色ある教育実践」を共有するためのページが多くなっている。

この資料集のポイントは、大学等の研究論文や、信頼できる出版元の著作物を参考文献とするなど、できる限り正確度の高い情報に基づいて、タイの歴史や文化、自然などについて、日本との比較や、中学校での学習内容などとの関連付けを意識して作成していることである。また、使用している写真等はすべて教員自身の手で撮影したものか、信頼できる第三者から提供されたものを用いている。さらに、タイに関する統計の数値については、日本語で公表されているものとタイの公的データとを比較して、両者の差の大きなものは採用しないようにしている。

この資料集を作成するための作業を繰り返しているうちに気が付いたことは、タイ人がタイ語で書いた情報に関する内容的な幅広さと量の豊富さである。当然といえば当然であるが、日本語でいくら検索しても見当たらない興味深い情報が、タイ語で検索すると比較的容易に入手できるのである。

たとえば、シラチャ発展の基礎を築いたとされる「チャオプラヤー・スラサックモントリ」をカタカナで入力して検索しても、私の検索エンジンでは「人物」の名前に関する

58. コウモリへの驚くべき対抗策を身に付けたヒロズコガの仲間

オオコウモリは優れた視覚により獲物を捕食しますが、小型のコウモリは口や鼻から超音波を発し、それが対象物にあたって反響してきたものを特殊な聴覚で感知して獲物の位置を特定します(反響定位)。したがって空中を低速で飛ぶ蝶や蛾の仲間は格好の標的となります。夜行性のヒロズコガの仲間などの一部の昆虫は、進化の過程でコウモリの超音波を用いた捕食行動への対抗策を身に付けました。それは、超音波をキャッチする機能(超音波聴覚)を持つ「競競器官」の獲得です。それにより、コウモリの発した超音波を感じ、飛行ルートを変えたり、翅を閉じて急降下したりするなどの捕食回避行動が可能になりました。コウモリの反響定位を妨害する音や超音波を自ら発する昆虫もあります。



シラチャ校の廊下で見つけたクロクモヒロズコガの仲間と思われる個体 (2025年10月)

学習のヒント

○探究的な学びの出発点の例

- ・反響定位の仕組みや獲物への照準の合わせ方、その能力を獲得している生き物について調べてみよう。
- ・飛行機や船の運航の安全や軍用目的に使われているレーダーやソナーについて調べてみよう。
- ・競競器官を有する昆虫や、その器官が発達した理由について調べてみよう。
- ・超音波聴覚を持った蝶などが、コウモリの発した超音波を感じた際にどのような捕食回避行動を行うのか調べてみよう。
- ・コウモリの反響定位を妨害する音を発する、ヒトリガの仲間などについても調べてみよう。

【参考文献】<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/369/> 「本校に芽生えるガの生態を世界で初めて解明! 九州大学WEBページ VISION 2030

る検索結果としては表示されない。しかし、タイ語に翻訳して **ເຈົ້າພະຍາສູງສັກດົມນຕີ** と入力すれば、すぐに求める人物の情報に行き着くことができる。また、今年度、中学部の修学旅行で新しい訪問先に加えたラムバーンの「黒い橋」も、日本語検索では WEB 上での情報に全くたどり着くことはできないが、**ສະພານດຳ** と入力してタイ語で検索すると、すぐに候補リストの中に現れてくるのである。いったん資料にたどり着くことができれば、あとはページ翻訳ソフトの力を借りながら調べていくことができるのが、一昔前とは大きく異なる点である。

ところで、本校においては、各学年の身近なタイの事象への興味関心から出発するタイに関する探究の中間到達点を「シラチャ祭で発表する成果物」として位置付けている。嬉しいことに、その成果物のレベルは年々高くなっていると評価されているが、そのレベルの高まりを支えているのが、児童生徒やそれを指導する教員のタイに関する総合的な理解の深まりである。子どもたちも教員も、興味関心の着眼点や調べ方、情報ソースの見つけ方、その処理の仕方や、それらに関する指導が年々うまくなっている様子が感じられる。

今年度の小学部の修学旅行においてそのことはよく表れていた。例えば、アユタヤ遺跡での見学目的地として、「アユタヤ王朝時代の姿を最も忠実に伝えている寺院」とされているワット・ナープラメーン(ວັດຫຼັພຣະມຽນ)を新たに加えたり、カンチャナブリーで訪ねる泰緬鉄道の学習のための博物館も、展示内容の精度の観点により、「第二次世界大戦博物館」から連合軍墓地

52. タイ最大規模の露天掘りが行っているメモ炭鉱

18世紀から19世紀の産業革命のエネルギーの主役は石炭でした。日本では、北海道や九州で無煙炭や瀬戸炭と呼ばれる良質な石炭が採掘されました。「軍艦島」と呼ばれた鍋島炭鉱は、世界遺産としても有名です。タイ最大の炭鉱は、ラムバーン県にある露天掘りのメモ炭鉱です。タイのエネルギー供給全体に占める石炭の割合は10~20%の間に推移しています。タイの石炭は、褐炭と呼ばれる低品質のもので、硫黄分、灰分%、水分を多く含んでいることから、燃焼時に硫黄酸化物を排出します。また、健康に害のある燃え残りの不純物も多く発生します。そのため、隣接する石炭火力発電所も含めて、公害や環境問題など多くの課題に直面しています。



大規模な露天掘りが行われているメモ炭鉱（ラムバーン県）

* ものが燃焼した後に残る不燃性の燃物質。石炭の場合は、石炭が植物だった頃に取り込んだミネラルなど。

学習のヒント

○探究的な学びの出発点の例

- ・石炭の品質による分類について調べてみよう
- ・北海道や九州で、かつて良質な石炭を産出した炭鉱について調べてみよう。
- ・鍋島炭鉱が世界遺産に登録された理由について調べてみよう。
- ・タイのエネルギー供給の割合のうち、最も多いものを調べてみよう。
- ・褐炭に含まれる硫黄分や灰分がどのように反応して有害な物質になるのかを調べてみよう。
- ・石炭や石油など化石燃料を使う発電所や工場プラントに必要な環境対策について調べてみよう。

【参考文献】<https://openjica-report.jica.go.jp/pdf/11575420.pdf> タイ王国ガオ石炭総合開発計画予備調査報告書 国際協力事業団総工業調査会編 2000年4月

シラチャ・ペディア 2024 第5巻 52話

うれしいことに、その成果物のレベルは年々高くなっていると評価されているが、そのレベルの高まりを支えているのが、児童生徒やそれを指導する教員のタイに関する総合的な理解の深まりである。子どもたちも教員も、興味関心の着眼点や調べ方、情報ソースの見つけ方、その処理の仕方や、それらに関する指導が年々うまくなっている様子が感じられる。



事前学習で実施したタイの伝統衣装「チュツ・タイ」を実際に着用して遺跡見学を行った6年生修学旅行

に隣接している「泰緬鉄道博物館」に変更したりするなどの改善が教員の下見による検討をもとに行われた。これらの改善のベースには、下見を行った教員のタイに関する深い理解と探究心があった。

さらに、アユタヤ時代の対日貿易の「ドル箱」的產品だった蘇芳(すおう:赤色染料の原料となる木)や、ワット・チャイワッタナーラーム(วัดไชยวัฒนาราม)遺跡で6年生の児童全員が着用した、タイの伝統衣装「チュツ・タイ」(ชุดไทย)なども、修学旅行前の事前学習と関連付けられていた。このような、現地の実態に即した、しかも専門性の高い授業が実施されればされるほど、タイ語による資料検索と翻訳機能を用いた情報収集は、子供たちにとっても、教員にとっても、大きな力を発揮することになるだろう。

感性の豊かな小学生や中学生の時代の体験や興味関心の芽生えは、その子供たちの人生の方向付けにとって大きな影響を及ぼすことがある。また、ごく身近な存在の「先生の一言」が、その子にとっての自信につながり、より大きな世界へ羽ばたくエネルギーとなることもある。

私たちのような教育の世界に身を置くものは、そうした子供たちの可能性の幅を広げ、夢を与える存在として、常に身近な事象から新しい着眼点を見出し、子供たちに適切に提示したり指導したりすることができるよう、アンテナを高くして自らも進化し続けていきたいものである。

79. オーガニック染料による草木染めを体験しよう

小学部の修学旅行第三日には、ナコーンパトム県にあるオーガニックファームのスアン・サー・ムブーンで、草木染めとアロマオイルづくりを体験します。草木染めの手順は、まず、格子模様に染め上がるような折り方で四角形に折りたんじ白い木綿の布の対角線の二端を、それぞれ二本の棒で挟み、その両端を輪ゴムできつく締めます。次に、それを染色液に浸して、しっかりと揉んで有地に染料を十分に浸透させます。染色液には色を固定する(洗濯時の色落ちを防ぐ)ためにミョウバンや塩が加えられています。その後、布を広げると格子状の連続模様が表れるので、それを陰干して完成です。赤色の色素は蘇芳、黄色はウコン、黒色はゴールデンシャワーの実などの草木から抽出されて、それぞれの色の染料となります。



(写真左上):赤色染料の原料の蘇芳 (右上):染色作業の様子 (左下):格子模様に染まつた布 (右下):アロマオイルづくりの様子 (異なる香料が入った4種類のオイルから一つを選んで花を入れた小瓶に注入する。)

学習のヒント

○探究的な学びの出発点の例

- 天然素材による染色原料にはどのようなものがあるのか調べてみよう。
- 豆乳液やミョウバン液が草木染めにどのように使われるのかについて調べてみよう。
- 布の縫り方によって、染め模様にどのような違いが表れるのかを調べてみよう。
- 草木染めに用いる「媒染剤」について調べてみよう。
- タマネギや紅茶、ムラサキツユクサなどの身近な素材を使って、家庭で草木染めを制作してみよう。

【参考文献】https://www.jstage.jst.go.jp/article/jose/25/2/25_2_107/pdf 齋吉正則他「環境教育における草木染めの活用—身近な環境での草木染めに適した植物の選択」東海大学教養学部 2015年

世界で一つだけの修学旅行

6年学年主任 大澤 勇太

6年生は11月12日(水)から14日(金)まで、アユタヤ・カンチャナブリーへ修学旅行に行ってきました。1学期から総合的な学習の時間を中心に取り組んできた学びを、実際に見て・触れて確かめ、今後につなげることを目標として準備を進めてきました。「アユタヤの寺院から見るタイの文化やマナー」「泰緬鉄道建設の歴史と意味」「草木染から考えるタイの暮らしと人々の思い」など、多様な視点で学んできた内容を、現地の体験と結びつけて再構成し、考えを深める3日間となりました。また、日本の代表として、マナーやルールを守る姿を示せるよう、仲間同士で声を掛け合う様子も見られました。

アユタヤでは伝統衣装を身にまとい、ワット・チャイワッタラナームを見学しました。気温の高い中での活動でしたが、子供たちは「昔の人はこの暑さで、衣装を着て生活していたと思うとすごい」と、当時の暮らしに思いを馳せていました。

カンチャナブリーでは、戦争の足跡を辿る学習を行いました。泰緬鉄道の乗車体験や博物館での見学では、英語の説明を推察したり大人に尋ねたりしながら、真剣な表情で歴史と向き合っていました。慰霊碑前で実施した平和式典の言葉にも、体験を通して感じた重みが加わったように思います。

タイの文化や日本との歴史に直接触れられるこの修学旅行は、世界で一つだけの特別な学びの場です。この経験が、子供たちの学校生活や将来へ確かな力となっていくことを願っています。



マングローブ林から世界へ

7年主任 津留 真由美

7年生は9月16日(火)マングローブ植林体験学習を行いました。7月から「マングローブを植えたら何が変わるのか」というテーマで一人一人が自分の課題を立てて追究し、当日も自然に囲まれながら一本一本いっしんに植える姿がありました。

植林体験で学んだことを、周辺の動物や植物だけでなく、範囲を広げてタイ全体、さらに世界に目を移して考えることができるように計画を立てました。その際、心がけたのはさまざまな教科と総合的な学習を結び付けることです。たとえば、家庭科の授業でマングローブ林が減少している原因の一つがパーム油の生産だということを知り、「パーム油は私がよく食べているポテトチップスなどに使われているが、森林破壊、人権問題などの多くの問題が発生している。解決方法は持続可能なパーム油の生産。初めは自分とは全く関係のないものだと思っていたが、追究していくうちに、私ともつながっていて、とても身近なものだということがわかった。」と、考えを深めている生徒もいました。

7年生全員、個人で追究した後、類似のテーマのメンバーで集まり、自分たちが訴えたいことや発表形態を話し合い、シラチャ祭で発表しました。1組代表はマングローブ林周辺の多様な生き物を守ろうと呼びかけた寸劇、2組は観光客によるごみの投げ捨てや海老の養殖場の影響で環境が汚染され、マングローブが減少したことを訴えるコントを披露しました。今後も一人一人の実践が続きます。





今年度着任された先生方の文章を順番に紹介していきます。

音楽の力

瀬戸山稀凜

朝夕の風が涼しくなり、「これが乾季なのか」と季節の移り変わりを感じるようになりました。季節が変わると、ふとあの日の気持ちを思い出すことがあります。私にとって、そのきっかけの一つが音楽です。先日スピツツの「楓」を耳にしたとき、日本の秋の景色や金木犀の香りが思い浮かびました。

タイでの生活の中でも、日本の曲を耳にすることがあります。ある日、タクシーに乗ったとき、運転手さんが日本人だと気付き、日本の音楽を流し口ずさんでくれたことがありました。その様子にとてもうれしい気持ちになりました。国や言葉が違っても、人と人が心でつながる瞬間を感じました。

音楽は、時間や場所を越えてそのときの思いを運んでくれます。子供たちにも、学校生活の中で「好きだな」と感じる曲に出会い、いつか思い返したときに心が温かくなるような思い出をつくっていってほしいです。

挑戦への一歩

池田真莉恵

12月を迎える、タイは一年で過ごしやすい乾季に入り、体を動かすのが心地よい季節になりました。体を動かすといえば、私も学生時代にソフトボールをしていました。

ソフトボールは「失敗が前提」のスポーツです。打率3割で一流と言われるように、10回のうち7回は打てません。私自身、試合の大変な場面で守備をミスし、勝利を逃したことがありました。その日の帰り道は、もうグラウンドに立つのが怖くてたまりませんでした。しかし、そんな私に監督がかけてくれた言葉があります。「大事なのはエラーしたことじゃない。次にまたエラーを恐れず、ボールに触りに行けるかどうかだ。」と。この言葉に背中を押され、私は「失敗を恐れて行動しないこと」が本当の意味での負けなのだと気付きました。

結果だけに目を向けて、挑戦しようと一歩踏み出した勇気を大切にしてほしいと思います。今年も残りわずかですが、新しい挑戦に向かう小さな一步の積み重ねをこれからも大切にしていきたいと思います。



日曜	児童・生徒の予定	バス時刻
1日（月）	・全校5時間授業 ・児童集会	14:20 P1-6 M1-3
2日（火）	・保育実習(9年)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
3日（水）	・臨海学校(5年)	14:20 P1 15:25 P2-4, 6 M1-3
4日（木）	・臨海学校(5年)	14:20 P1-2 15:25 P3-4, 6 M1-3
5日（金）	ブミポン前国王誕生日(父の日)	
6日（土）		
7日（日）		
8日（月）	・クラブ活動(小)	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
9日（火）	・交流会(中) ・購買(配付日)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
10日（水）	ラッタタマヌーンデー(憲法記念日)	
11日（木）	・購買(提出日)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
12日（金）	・委員会活動(小) ・学級だより配信(小)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
13日（土）		
14日（日）		
15日（月）	・個別面談(小)三者面談(中) ・全校5時間授業 ・児童集会	14:20 P1-6 M1-3
16日（火）	・個別面談(小)三者面談(中) ・全校5時間授業	14:20 P1-6 M1-3
17日（水）	・個別面談(小)三者面談(中) ・全校5時間授業 ・中学部立会演説会	
18日（木）	・個別面談(小)三者面談(中) ・全校5時間授業	14:20 P1-6 M1-3
19日（金）	・個別面談(小)三者面談(中) ・全校5時間授業	14:20 P1-6 M1-3
20日（土）		
21日（日）		
22日（月）	・音楽集会	14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
23日（火）		14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
24日（水）	・縦割り班活動(小)	14:20 P1 15:25 P2-6 M1-3
25日（木）	・委員会活動(中)	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
26日（金）	・2学期終業式 学校,学年だより配信 ・学級だより配信(小,中) ・生徒集会(中)	14:20 P1-6 M1-3
27日（土）		
28日（日）		
29日（月）		
30日（火）		
31日（水）	大晦日	

★は特別バスです。通常の下校バスと時刻が違うときに付いています。

5年 臨海学校

★ 3日（水）から、1泊2日の日程で、小学部5年生がジャンタブリー県に臨海学校へ行きます。シラチャ校では、タイの気候を生かし、年間を通して水泳の授業を行っています。ジャンタブリーの美しい海で、これまでの練習の成果を発揮しましょう。

9年 保育実習

2日（火）の3・4時間目に9年生は家庭科の授業の一環として、オイスカシラチャ幼稚園で実習を行います。この実習にあたり、子供たちが楽しめるおもちゃや生徒それぞれが考え、製作してきました。園児と一緒に遊んだり、昼食をとったりするなかで、家庭科の授業で学んだことを実体験してきます。

中学部 生徒会役員選挙

17日（水）は、中学部で生徒会役員選挙が行われます。これまでシラチャ校の最高学年として、学校全体を引っ張ってきた9年生から、8年生、7年生へとバトンが引き継がれます。生徒会は、中学部の生徒全員で組織され、運営しています。より良い学校を目指し、みんなで力を合わせていきましょう。

★ 中学部 交流学習会

★ 9日（火）に中学部の生徒は、交流先であるスッカボット校を訪れ、交流学習会を行います。この日は、タイと日本の文化を紹介し合い、様々な体験活動に取組むほか、アイスブレイクの時間も設けられています。タイ語や英語を駆使して、日本とタイの友好の輪を広げましょう。

編入・退学時のプレゼントについて

例年、お子さんが退学されることになった保護者の方から「お世話になった学級のお友達に教室でプレゼントを渡して良いですか？」という質問が学校に寄せられます。

編入・退学時の学校でのプレゼントの受け渡しは行わないよう、学校としては保護者の方々にこれまででもお願いしております。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。